

令和6年度
災害廃棄物処理対応強化事業企画運営業務委託
報告書
(地域ワークショップ)

令和7年3月

一般財団法人日本環境衛生センター

目次

第1章 業務の目的及び内容	1
(1) 目的	1
(2) 履行期限	1
(3) 業務概要	1
第2章 業務の報告	3
第1節 弘前市地域ワークショップ	3
(1) 対象	3
(2) 業務内容	3
① 事前準備	3
② 分別クイズ	5
③ 事前ブリーフィング	6
④ インタビュー	7
⑤ ワークショップディスカッション	7
⑥ 弘前市コミットメント	15
(3) アンケート	16
第2節 八戸市地域ワークショップ	20
(1) 対象	20
(2) 業務内容	20
① 事前準備	20
② アイスブレイク	21
③ 事前ブリーフィング	25
④ 分別クイズ	25
⑤ ワークショップディスカッション	27
⑥ 八戸市コミットメント	36
(3) アンケート	39

第1章 業務の目的及び内容

(1) 目的

近年、全国的に大雨や地震による災害が頻発しており、青森県（以下「県」という。）でも令和3年・令和4年と連続して大雨被害を受け、大量の災害廃棄物が発生した。災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理するためには、市町村単体ではなく、県全体での対応力の底上げを図る必要があることから、平時からの住民理解の促進に向けた「地域ワークショップの開催」を通じて、官民連携した実践的能力の向上及び災害廃棄物処理に係る初動対応の強化を図るものである。

本業務では、災害廃棄物の課題に対するリスクコミュニケーションを醸成するために、「勝手仮置場」、「便乗ごみ」、「ファストレーン」、「災害廃棄物処理に必要な時間と費用」の4つのキーワードを基に、行政職員、関係団体、住民、学生、ボランティア、関係事業者間が、それぞれの立場や経験に基づき、ワークショップを通じて互いに理解を深めることを成果目標として、請負者である一般財団法人日本環境衛生センター（以下「当センター」という。）が、県をはじめとする関係者と内容を調整し、効率的なワークショップとなるよう企画・立案をして実施した。

(2) 履行期限

契約締結日から令和7年3月14日（金）まで

(3) 業務概要

開催日時及び開催場所は、下記のとおり実施した。

第1回 弘前市 2024年11月16日（土） 13:00～16:00
弘前市役所前川新館3階会議室（〒036-8207 青森県弘前市白銀町1-1）

第2回 八戸市 2025年2月9日（日） 13:00～16:00
八戸市津波防災センター（〒031-0071 青森県八戸市沼館四丁目6-19）

上記会場にて各1回開催した。

開催にあたり、開催案内（チラシ）を下記のとおり作成した。

「もしものために今、できること /

みんなで考える災害廃棄物への準備 ～地域の復旧・復興のために～

日時 令和6年11月16日(土) 13:00～16:00
場所 弘前市役所前川新館3階会議室(弘前市上白銀町1-1)



**大切な地元を守るために
“災害”についてみんなで向き合ってみませんか**

被災時の災害廃棄物処理を迅速に運ぶことは、住民、行政、事業者が
関係団体の共有化(リスクコミュニケーション)を平時から醸成しておくことが重要です。

本ワークショップでは、災害廃棄物の排出・処理の基本的な位置づけや処理フロー、
実際の災害廃棄物処理に際する時間、費用等の問題を、ステークホルダーが共有するための場として開催します。

01 座学研修

目的
過去の被災地での実態から出てきた「廃棄物処理」や「廃棄物」の発生、
処理場での処理状況、処理後の不燃炭、燃焼残渣に関する行政と住民
の認識の違い等の課題について解説します。

内容
過去にも被害者支援経験のある方に、インタビュー形式でお話を伺います。

02 ワークショップ

目的
住民、行政関係、関係事業者の各視点から意見を出し合い、課題解決に向け
それぞれの役割について検討します。
持続可能な地域にどのようなアイデアがあるか議論します。

内容
有害・危険廃棄物については、誰が処理するかを事前に確認し、事前に
出るやもたせません。適切な分別・処理方法についてクイズ形式で争んで
いきます。

参加費：無料
 お申込み方法：11/13(水)までに、TELまたはEメール(所属名・氏名・電話番号を記入)で
弘前市環境課 (TEL0172-32-1969、Eメールkankyou@city.hirosaki.lg.jp) へ

主催：青森県環境エネルギー部 環境政策課 協力：弘前市市民生活部 環境課
お問い合わせ
一般財団法人 日本環境衛生センター サステナブル社会推進部 ☎045-285-3710 (TEL0172-32-1969)

図1 弘前市 チラシ

「もしものために今、できること /

みんなで考える災害廃棄物への準備 ～地域の復旧・復興のために～ in 八戸

日時 令和7年2月9日(日) 13:00～16:00
場所 八戸市津波防災センター(八戸市沼館四丁目6番19号)



**災害廃棄物って何？
みんなで向き合ってみませんか。**

八戸市では、2011年の東日本大震災以来、大規模災害は起こっていませんが、
近年は欧州でも津波・下北の大震災等や、今年1月の地震半島各地など、大規模災害が多発しています。

被災時の災害廃棄物処理を迅速に運ぶことは、行政や事業者だけでなく、
住民の理解と協働の共有化(リスクコミュニケーション)を平時から醸成しておくことが重要です。

本ワークショップは災害廃棄物について、住民の理解に向けての機会を設けるため、**今も参加を歓迎します。**
「災害廃棄物なんて分からない」と思う方も、平日は参加が出来ます。ぜひご参加下さい!

01 座学研修

目的
有害・危険廃棄物については、誰が処理するかを事前に確認し、事前に
出るやもたせません。適切な分別・処理方法について
クイズ形式で争っていきます。

内容
過去の被災地での実態から、「廃棄物処理」や「廃棄物」の発生、
処理場での処理状況、処理後の不燃炭、燃焼残渣に関する
行政と住民の認識の違い等の課題について解説します。

02 ワークショップ

目的
住民、行政関係、関係事業者の各視点から意見を出し合い、課題
解決に向けそれぞれの役割について検討します。持続可能な地域
にどのようなアイデアがあるか自由に議論します。

内容
有害・危険廃棄物については、誰が処理するかを事前に確認し、事前に
出るやもたせません。適切な分別・処理方法についてクイズ形式で争んで
いきます。

お加費：無料
 お申込み方法：令和7年2月3日(月)までに氏名・所属名・電話番号を環境政策課までお知らせください。
(TEL017-734-9249、Eメールkazuyasu_nakanowatari@pref.aomori.lg.jp 担当：中野渚)
なお、すでにご連絡いただいている場合は改めての申し込みは不要です。

主催：青森県環境エネルギー部 環境政策課 協力：八戸市 環境政策課
お問い合わせ
一般財団法人 日本環境衛生センター サステナブル社会推進部 ☎045-285-3710 (TEL017-734-9249)

図2 八戸市 チラシ

第2章 業務の報告

第1節 弘前市地域ワークショップ

(1) 対象

当日の参加者は、弘前市職員3名（事務局含む）、住民4名、ボランティア1名、学生2名、関係団体7名の計17名での開催となった。

グループ分けは、それぞれのステークホルダーの意見が聴取できるように3グループに分かれてワークショップを実施した。ほか事務局として、当センターから5名が参加し、会場準備、司会進行・運営支援等を実施した。

(2) 業務内容

① 事前準備

事前準備では以下の内容を実施した。

- ・会場準備（長机・椅子・ホワイトボードの設置 等）
- ・配布物の準備（配布資料・名札・筆記用具・模造紙・ポストイット・お菓子 等）
- ・受付準備（名簿・飲み物 等）
- ・演台準備（投影資料・マイクテスト 等）

当日のレイアウトは下記のとおり。

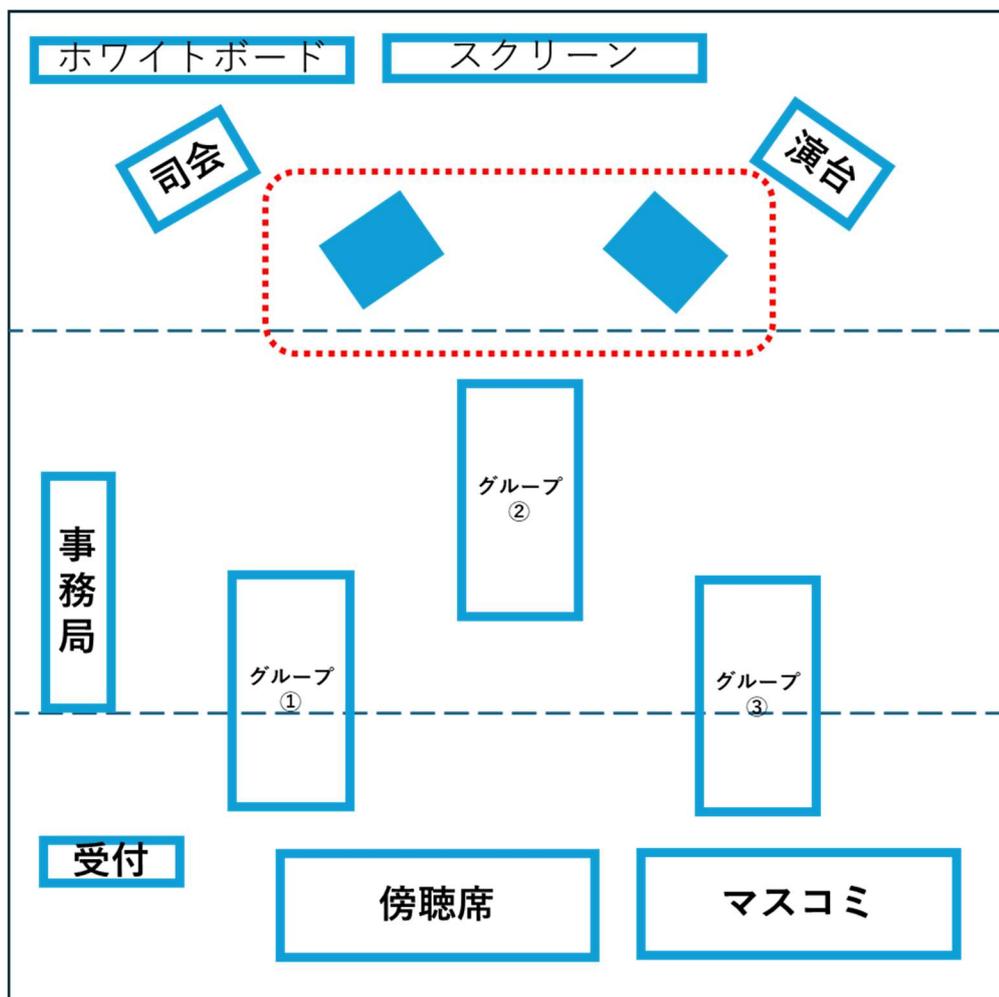


図3 当日レイアウト



図4 会場準備①



図5 会場準備②

ワークショップ開催に伴い、青森県環境政策課 総括主幹（循環型社会推進 GM）石塚雄士氏、弘前市市民生活部環境課 課長 葛西正樹氏よりお言葉を頂いた。

開会挨拶

近年、全国各地で様々な自然災害が多発しており、本県でも令和3年、4年と続けて大雨による浸水被害が発生して、多量の災害廃棄物が発生した。

被災した地域の復旧・復興のためには、災害で発生した災害廃棄物を円滑に処理することが必要である。そのためには、行政だけでなく、地域に暮らす方々をはじめ、災害廃棄物の排出から処理までに関わる方々、すべての方々の協力が欠かせないものと考えている。

本ワークショップは、そうした関係者の方々がそれぞれの立場やこれまでの経験をいかして、災害廃棄物の処理について考え、意見を交わしていただき、互いに理解を深めていただくことを目的とし、本県で初めて開催する。

本日お集まりの皆様には、活発なご議論をいただき、このワークショップが地域における災害廃棄物の円滑な処理に向けて理解や考えを深めるきっかけとなることを期待したい。

青森県が主催する災害廃棄物に係る地域ワークショップを初めて、当市において開催することになった。

当市では、一昨年8月に大雨による浸水被害があり、その際には様々な災害ごみが発生した。生活の復旧のためには、災害ごみの処理が非常に重要であることを体感した。

本日のワークショップでは、災害が発生したときに行政だけではなく市民の皆様、事業者の皆様が共通の認識を持って災害ごみへの対応をすることで、1日も早く元の日常を取り戻すということをテーマにしている。



石塚総括主幹



葛西課長

本日のワークショップを通じて、災害が発生した際のごみ処理について関心を持っていただき、皆様がより安心して暮らせる都市の未来につながっていただければと考えている。

② 分別クイズ

ワークショップに取り組む前の事前ワークとして、災害廃棄物処理に関する分別クイズを2問実施した。災害時に排出される有害・処理困難物については、誤った処理が重大な事故を引き起こす原因になるため、適切な分別・処理方法についてクイズ形式で学べる内容とした。

センター職員を各グループのファシリテーターとして配置し、グループ内の自己紹介を含め、グループワークの進行補助をした。設問は下記のとおり。

問1

家電リサイクル対象品目は次のうちどれでしょう？


1、テレビ（チューナーあり）

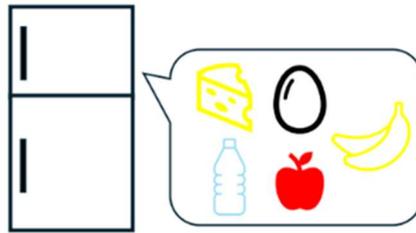

2、モニター（チューナーなし）


3、パソコン

図6 分別クイズ 設問1

問2

冷蔵庫の中身（食料品）が入ったまま、災害廃棄物として排出しても良いでしょうか？



1、災害廃棄物として食料品ごと排出してよい

2、冷蔵庫と中身は別にして排出する

図7 分別クイズ 設問2



図8 グループワークの様子①



図9 回答及び解説の様子

③ 事前ブリーフィング

当センター事業推進役の鈴木より災害廃棄物に関する話題提供として、「事例から共有する災害廃棄物処理について」と題して、過去の被災地での実態から出てきた「勝手仮置場」や「便乗ごみ」の発生、仮置場付近の渋滞発生、分別排出の不徹底、仮置場運営に関する行政と住民の認識の違い等の課題について分かりやすく解説した。災害廃棄物を適正に処理することの必要性、行政・市民・地域の事情等が協働することの有用性を解説し、ワークショップディスカッションへのヒントとなるような話題提供を実施した。



図 10 講義の様子①



図 11 講義の様子②

④ インタビュー

事前ブリーフィング終了後、過去に弘前市で被災経験のある小友町会長の水木光國氏にインタビューを実施した。

小友地区では、2022年8月の豪雨により近くを流れる大峰川の水門閉鎖により近くの川があふれ、内水氾濫により床上・床下浸水は20軒以上が被害を受けた。その他にも水田の稲穂やりんご園地等が水に浸かるなど、農作物への被害も出た。

インタビューでは、「災害への備え」「災害廃棄物を排出する際の問題点やリクエスト」「排出する際の気持ち」等について意見交換を行った。

水木氏は当時の状況を振り返って「水を含んだ畳や家財を動かすことが大変であった」「便乗ごみを排出する人も見られた」「当時は弘前市が仮置場の設置や分別方法について指示してくれたため、スムーズに処理を進めることができた」と振り返った。災害廃棄物を処理するために、市民と行政の連携や、ごみ出しルールの確認の大切さ等について、インタビューを通じて全体に共有した。



図 12 インタビューの様子①



図 13 インタビューの様子②

⑤ ワークショップディスカッション

災害廃棄物処理に関する4つのテーマに対して、住民、行政職員、関係事業者等の各視点から意見を出し合い、課題解決に向けそれぞれの役割について検討し持続可能な地域にどのようなアイデ

アがあるかグループワークを実施した。テーマは下記のとおり。

- テーマ① 「分別して持ち込むことは難しい？」
- テーマ② 「勝手仮置場って何故出来るのだろうか？」
- テーマ③ 「世代や属性を超えて、取り組むためには？」
- テーマ④ 「被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？」

グループ内で出た意見は、模造紙やポストイットを使用してまとめた。その後、ホワイトボードを使用して、会場全体にグループの意見を発表した。



図 14 グループワークの説明



図 15 グループワークの様子②



図 16 グループワークの様子③



図 17 発表の様子①



図 18 発表の様子②



図 19 発表の様子③

各グループの意見は下記のとおり。

〈Aグループ〉

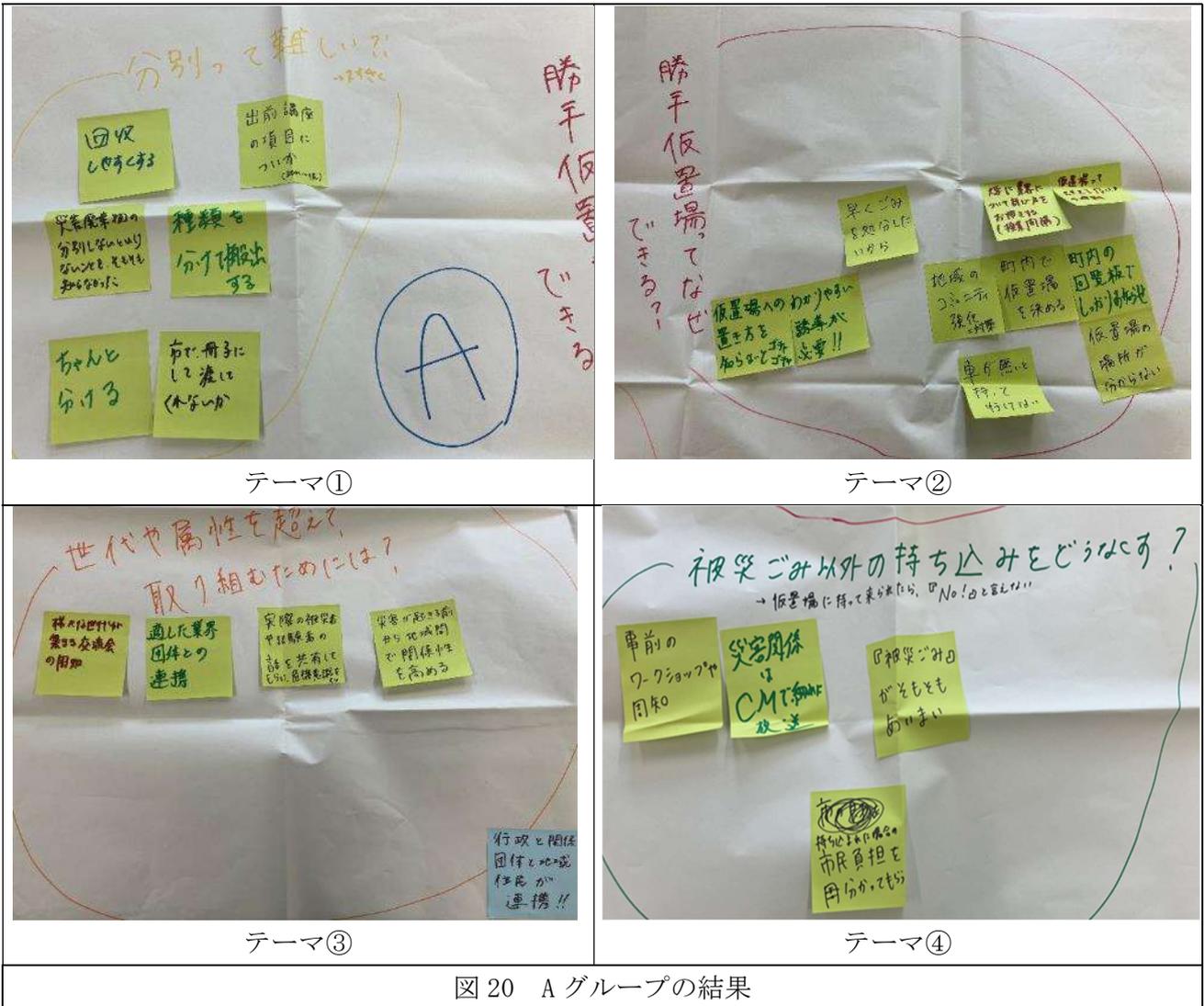


図 20 Aグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

市で冊子にして渡してくれないか

出前講座の項目に追加 (30m～1 h)

回収しやすくする

災害廃棄物の分別をしないとイケないことを、そもそも知らなかった

ちゃんと分ける

種類を分けて搬出する

テーマ② 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

仮置場への置き方を知らないとゴチャゴチャ

分かりやすい誘導が必要

早くごみを処分したいから

大学に業界について詳しい方をお招きする (授業開講)

仮置場ってそもそも何か？の理解

町内の回覧板でしっかりお知らせ

町内で仮置場を決める

地域コミュニティ強化・対策

車が無いと持って行けない

仮置場の場所がわからない

テーマ③ 世代や属性を超えて、取り組むためには？

様々な世代が集まる交流会の周知

実際の被災者や経験者の話を共有してもらい、危機意識をもつ

適した業界団体との連携

災害が起きる前から地域間で関係性を高める

テーマ④ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

「被災ごみ」がそもそもあいま

持ち込まれた場合の市民負担を分かってもらう

事前のワークショップや周知

災害関係はCMで細かめに放送

〈Bグループ〉



図 21 Bグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

分かりやすいプラカードで案内してほしい

事前に知る機会があればできる

リチウムイオン電池まで分別できるか…

高齢者

余分なものは持ちすぎない

分別した方が運ぶのも楽

テーマ② 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

仮置場がどこかわからない

仮置場の周知方法

仮置場どこ？

距離

とにかく早く片づけたい

誰かが片付けてくれると思ってしまう

車がないと難しい

運べないと家の前に置くしかない

誰かが置いていると、自分も置いてしまう

テーマ③ 世代や属性を超えて、取り組むためには？

それぞれの立場での責任

協力・常日頃の備え・交流・訓練・練習・教育・継続・情報収集・つながり

人が大事

ボランティアの力を借りる

町会で把握しておく

行政が把握している 200 名程度

きちんとした指示が大切

コミュニティ・人間関係・つながり

地域コミュニティ

テーマ④ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

仮置場で住所確認

ポスターで周知する

被災者マーク（シール）・番号

被災者リストを作成

ごみに氏名を書く

〈Cグループ〉



図 22 Cグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい?

難しい、どこに持っていくのかがわからない

家から置き場まで持って行けない (力がない・足がない)

大きさ・家庭環境 (老若男女)

仮置地にきちんと明記 (置く場所に) すれば可能

泥で汚れていると、何ごみになるのか分からない

もともと何ごみなのか？

分別の種類が多い

災害の種類によって、分別が難しいこともある

分別の種類は？わからない

分別の種類、分別の方法が難しい

モラル・メンタル

状況による

水害等 — 困難

地震等 — 可能

建物の状況によって搬出ができるか、できないか

テーマ② 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

市からの情報提供が遅い

公共団体の広報が行き届かない

市からの情報がどこから来るのか分からない

ごみ置き場にごみを持っていく方法がないから

自分1人位なら良いだろうと思う

家の中に長くは置いておけない

大きさ・重さ・面倒くさい・多量

車使えないので運べない

地震等では道が通行不可の場合有

分別ルールを知らないボランティアがやってしまう

ボランティアの方がいるうちに！と急いでしまう

とりあえず・一時的に

自宅のごみを片付けるのにとりあえず置くため

ごみのごみを引き寄せる

ほかの人が持っていくから

テーマ③ 世代や属性を超えて、取り組むためには？

One for All、 All for one

学校教育の必要性

義務教育での親子共々に教育

防災教育の一環にする

ボランティアの力を借りる

全員が被災者

テレビ・ラジオでの広報

いろいろな媒体での広報、メディア含む

行政からの積極的な呼びかけ

防災放送を活用する

テーマ④ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

場所が決まっているものしか受け付けていません

入り口で防ぐ（門番）

ごみの分別のルール化

様々な方法で呼びかけ

被災していない人は持ち込めないように、身分証提示

住所確認

被災者のリスト活用（住所等）

⑥ 弘前市コミットメント

ワークショップ全体の成果として、弘前市のコミットメントを下記のとおり提示した。

私たちは、弘前にくらす「人」として、
災害廃棄物の処理に、行政と地域住民と関係団体が
チカラを合わせて取り組みます！

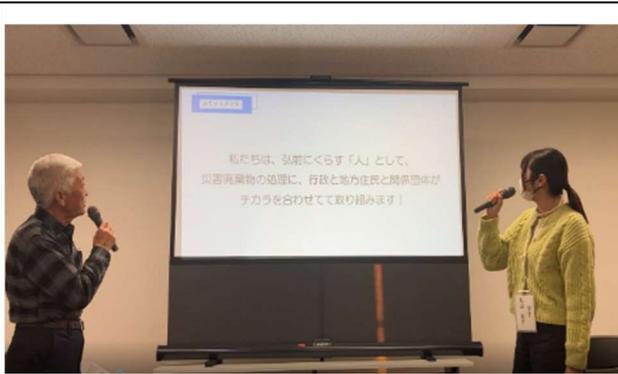


図 23 弘前市コミットメントの発表



図 24 記念撮影

ワークショップ閉会に伴い、青森県環境政策課 総括主幹（循環型社会推進 GM）石塚 雄士氏よりお言葉を頂いた。

閉会挨拶



石塚総括主幹

本日は長時間にわたり、活発なご議論をいただき感謝申し上げます。議論が非常に盛り上がり、様々なアイデアが出されるなど、とても身のあるワークショップになったと思う。

本ワークショップは、県内では初めて、全国的にも例がない先駆的な取り組みとして開催した。本日のワークショップの成果として、皆様には、コミットメントを取りまとめていただいたが、このコミットメントで終わりにするのではなく、今後万が一災害が発生した時の心構え的なものとなり得ると考えている。

今日の内容を持ち帰っていただき、災害時について皆さんが考えたことを職場や町会、近所の方に是非共有いただければと思う。

(3) アンケート

ワークショップ終了後、参加者に対して事後アンケートを実施した。
設問は下記のとおり。

青森県災害廃棄物に係る地域ワークショップ

「みんなで考える災害廃棄物への準備」in 弘前 アンケート

質問1 あなたの所属(お立場)について教えてください。(〇で囲ってください)

市民 学生 行政職員 関係団体

質問2 今回のワークショップの感想をお聞かせください。(〇で囲ってください)

① 災害廃棄物に関する説明+インタビュー

とても参考になった 参考になった どちらでもない あまり参考にならなかった

② ワークショップの前と後で災害廃棄物に関する気付きがありましたか

とても気付きがあった 気付きがあった どちらでもない あまりなかった

③ 「とても気付きがあった」「気付きがあった」とお答えいただいた方に伺います。
どのような気付きがありましたか。

[]

④ 今回のワークショップに参加して良かったでしょうか。

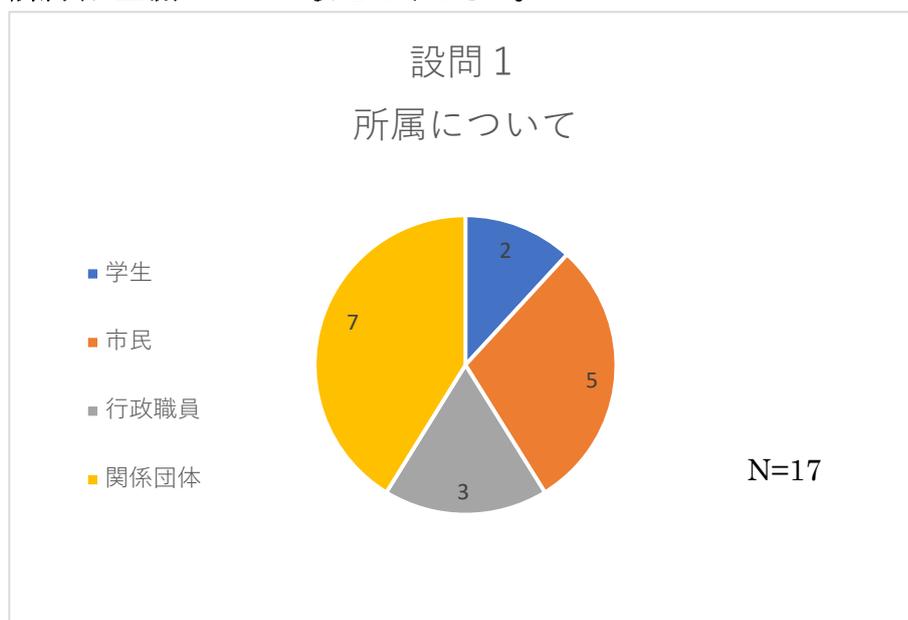
とても良かった 良かった どちらでもない あまり良くなかった

⑤ その他ご意見(今回のワークショップ、行政と市民の連携等)があれば記載をお願いします。

[]

★ご協力、ありがとうございました！

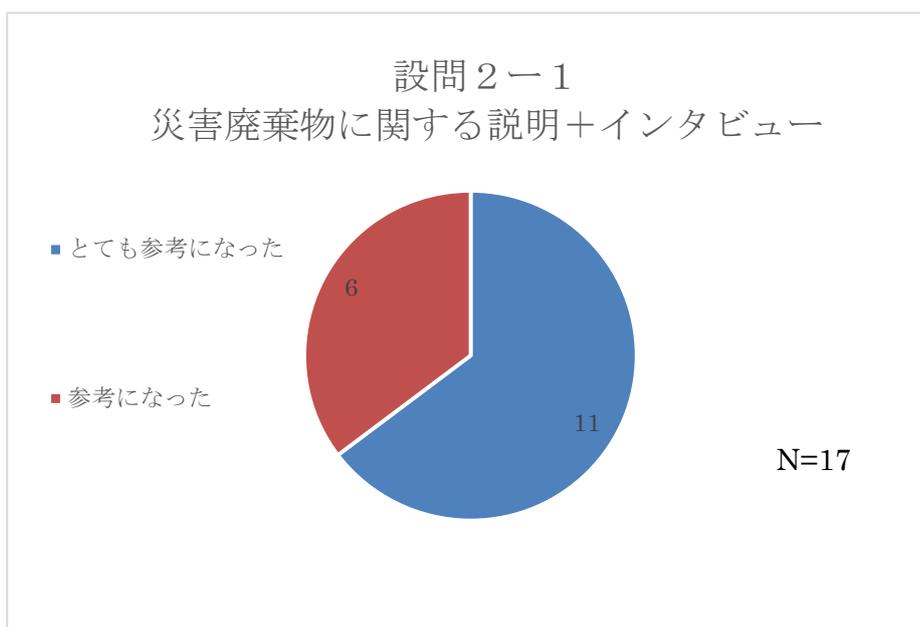
質問1 あなたの所属(お立場)について教えてください。



質問2 今回のワークショップの感想をお聞かせください。(○で囲ってください)

①災害廃棄物に関する説明+インタビュー

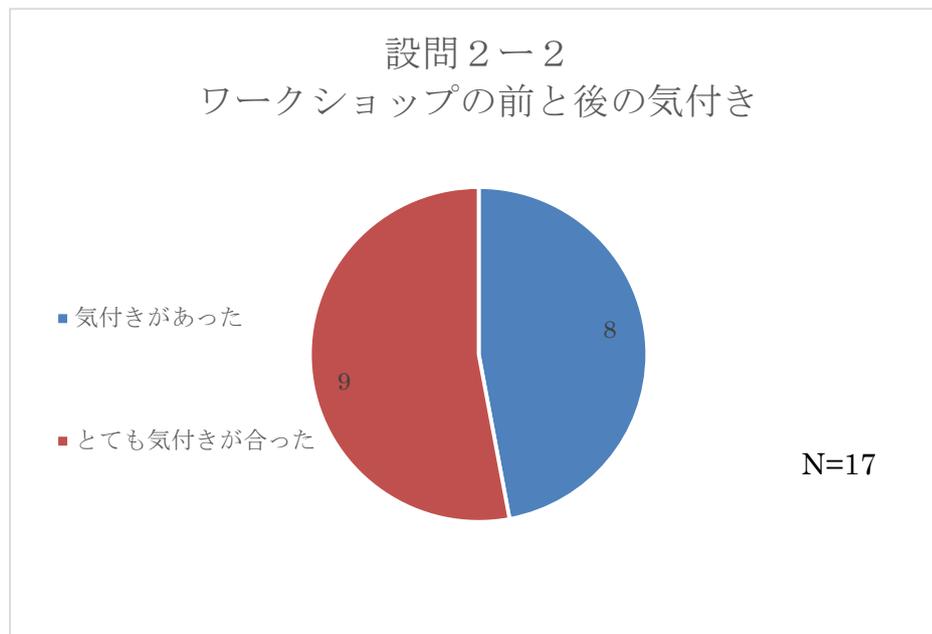
【とても参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった】



②ワークショップの前と後で災害廃棄物に関する気づきがありましたか

【とても気づきがあった・気づきがあった・どちらでもない・あまりなかった】

設問 2-2
ワークショップの前と後の気付き



③「とても気付きがあった」「気付きがあった」とお答えいただいた方に伺います。どのような気付きがありましたか。(N=16)

仮置場の存在は前から知っていたが、勝手仮置場について初めて知った。その解決策について話し合えたのが良かった

そもそも災害廃棄物について深く考えたことがなかったので、復旧をいかに早く行うか、分別がいかに大切かを学びました

災害廃棄物に対しての way, How, what が大切

すべてはじめてお聞きし、為になりました

小友地区の町会長さんのお話をたくさんの方にお聞かせしたいと思いました

廃棄物の分別場所の知識がより深まった。考えていかなければならない

関係者の方や、行政の方々の現場・現状を知ること、さらに防災を深く考えられた人とのつながり

日頃からできること、すべきことが多くあることに気付かされた

行政だけでなく、収集業者や地域の人と話を共有することで、それぞれの立場の事情や意見を得ることができました

防災部門と環境部門など各部門の横のつながりの重要性を改めて感じる事ができた

業界人以外は全くわからない

意見交換をしているうちに、自分が気付かなかったところに気付いてよかった

廃棄物処理にかかわってない方は、ごみについて基本的な部分から広報しなければいけない

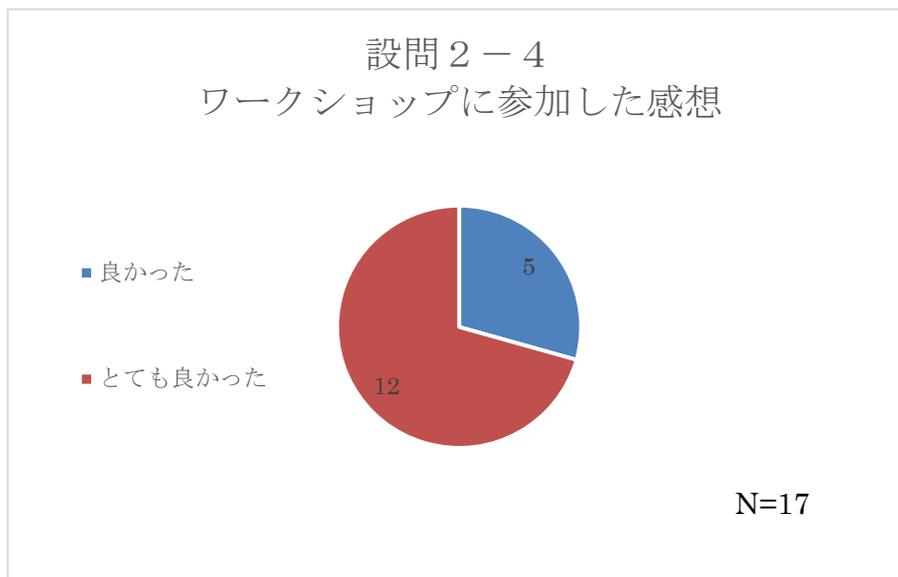
勝手仮置場が出来る事

各々の考え方等

災害ごみとは何かという事

④今回のワークショップに参加して良かったでしょうか。

【とても良かった・良かった・どちらでもない・あまり良くなかった】



⑤その他ご意見(今回のワークショップ、行政と市民の連携等)があれば記載をお願いします。

(N=10)

非常に良い時間だと感じたので、今後も定期的に行ってほしい。その際は様々な立場の人が来てくださると勉強になると感じる

義務教育の親子を含めた防災教育等あればと思いました

廃棄物に対しては事前の発信情報の周知徹底が不可欠

市職員、関係団体の方と身近にお話(質問)でき、大変有意義な時間になりました。本当にありがとうございました

特になし、すごく良い勉強になりました

行政による市民への講座より、互いの抱える問題を出し合いながらの話し合いの方が理解し新しい行動を考えるきっかけとなった

時間がもう少し短い方が、参加者が増えるのでは…と班で意見が出ました

学生にもお知らせが必要

役所⇄市民の交流の場を増やしていただければと思う(情報が届いていない)

災害の種類や度合いにより、さまざまな事が起きると思います。常日頃練習する事が大事だと思います

第2節 八戸市地域ワークショップ

(1) 対象

当日の参加者は、八戸市職員5名（事務局含む）、住民6名、ボランティア5名、学生4名、関係団体10名の計30名での開催となった。その他、オブザーバーとして大学関係者ら8名が参加した。

グループ分けは、それぞれのステークホルダーの意見が聴取できるように5グループに分かれてワークショップを実施した。

ほか事務局として、当センターから6名が参加し、会場準備、司会進行・運営支援等を実施した。

(2) 業務内容

①事前準備

事前準備では以下の内容を実施した。

- ・会場準備（長机・椅子・ホワイトボードの設置 等）
- ・配布物の準備（配布資料・名札・筆記用具・模造紙・ポストイット・お菓子 等）
- ・受付準備（名簿・飲み物 等）
- ・演台準備（投影資料・マイクテスト 等）

当日のレイアウトは下記のとおり。

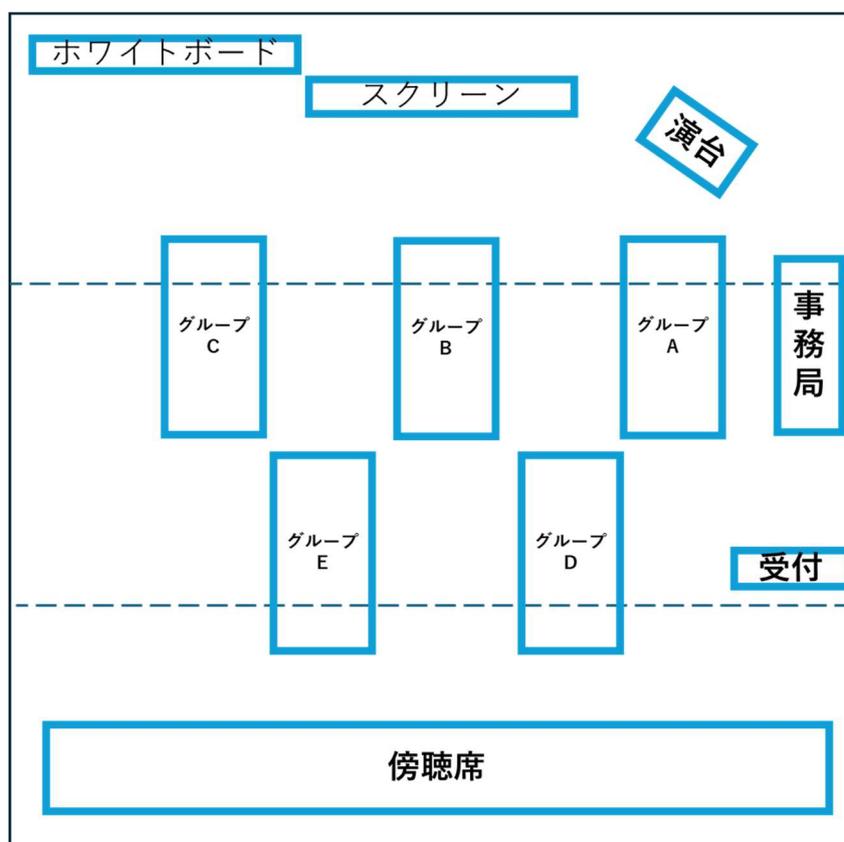


図 25 当日レイアウト



図 26 会場準備①

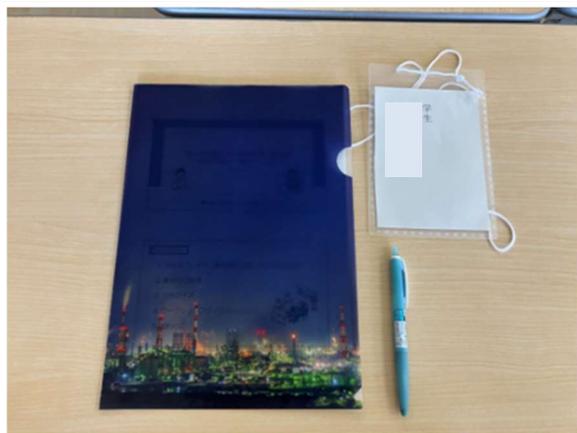


図 27 会場準備②

ワークショップ開催に伴い、青森県環境政策課 総括主幹（循環型社会推進 GM）石塚雄士氏、八戸市 市民環境部次長兼環境政策課長 早狩仁氏よりお言葉を頂いた。



石塚総括主幹

八戸市は近年、災害廃棄物が排出される大きな災害は発生していないが、30年前の三陸はるか沖地震、14年前の東日本大震災等、会場である津波防災センターが建設されるきっかけとなるような災害を過去に経験している。本県でも令和3年、4年と続けて大雨被害を経験し、災害廃棄物が発生している。

地域を迅速に復旧・復興するためには行政だけでなく、災害廃棄物を排出・収集を行うすべての方々の連携が必要となる。

本日は議論の中で何か正解を見つけ出すのではなく、関係者の方々、それぞれの立場やこれまでの経験をいかして、災害廃棄物の処理についてみんなで考え、意見を交わしていただき、互いに理解を深めていただくことを目的としている。



早狩課長

本日は、青森県解体工事業協会、青森県産業資源循環協会、八戸市一般廃棄物処理業者連絡協議会、八戸市社会福祉協議会、災害ボランティアコーディネーター連絡協議会、しもなが安全安心ネットワーク、八戸工業大学、八戸学院大学等多くの方々にご参加いただきました。

近年毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、多くの被害が発生している。その中で、災害廃棄物の迅速かつ適正な処理がますます求められている。

当市においても東日本大震災の際に仮置場の設置運営をしているが、平時から新たな知見を取り入れ、備えることが必要であると考えます。

本ワークショップでは、災害廃棄物について認識していただき、官民を問わず災害廃棄物を処理するネットワークをつなげ、平時から連携が取れるよう期待したい。

②アイスブレイク

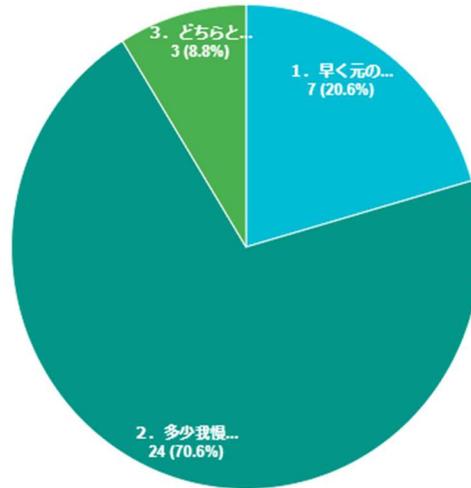
参加者に対して発災時の行動に関する意識を確認することを目的としたQRコードを用いた事前アンケートを実施した。参加者にはスマートフォンでQRコードを読み込んでもらい回答いただいた。回答結果はスクリーンに投影し、全体に共有した。

アイスブレイクの設問と結果は下記のとおり。

設問 1

被災してしまった場合、あなたはどのような行動をしますか。

1. 早く元の生活に戻れることを最優先に自ら判断する 2. 多少我慢しても、行政からの指示や情報に基づき行動する 3. どちらとも言えない

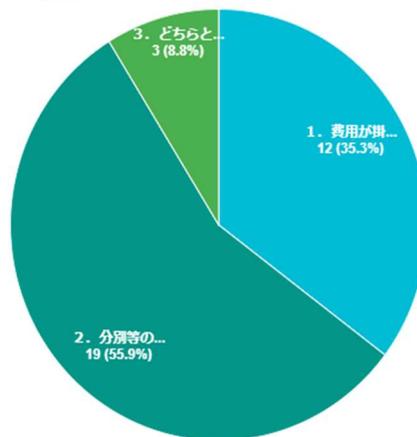


N=34

設問 2

災害廃棄物が発生してしまった場合、行政がそれを処理することになりますが、あなたはどのように感じますか？

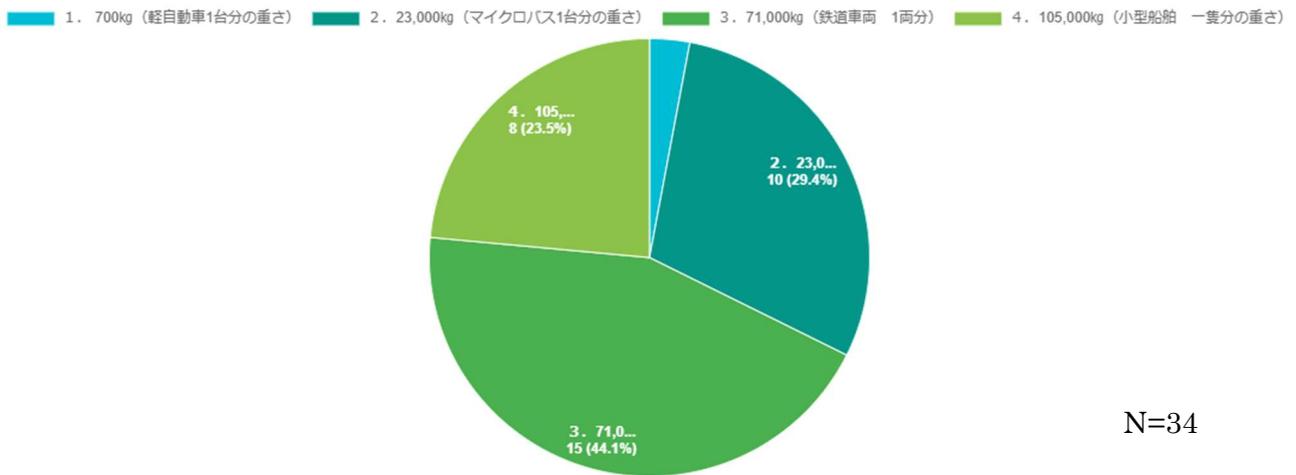
1. 費用が掛かっても1日も早く、身の回りから無くして欲しい 2. 分別等の手間が掛かっても、結果的に地域の費用負担が軽減するのであれば仕方ない 3. どちらとも言えない



N=34

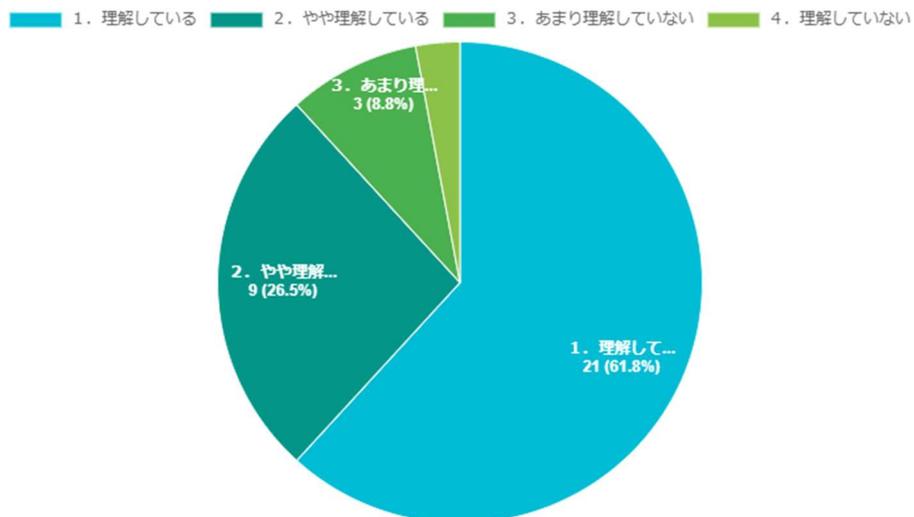
設問 3

被災して木造二階建て家屋が全壊した場合に、一軒あたりどのくらいの、災害廃棄物が発生すると思いますか？



設問 4

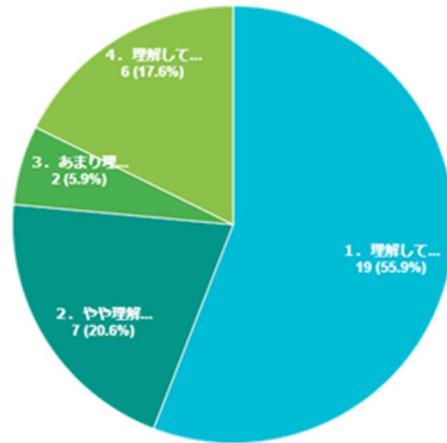
お住いの地域の「平時」のごみの分別・排出方法はわかりますか？



設問 5

「発災時」のごみの分別・排出方法は平時と変わる場合があります。分別して排出することが必要だったり、指定された排出場所(仮置場)に持ち込む必要があることはご存じですか？

1. 理解している 2. やや理解している 3. あまり理解していない 4. 理解していない



N=34



図 28 回答結果の共有と解説①



図 29 回答結果の共有と解説②



図 30 回答結果の共有と解説③

③事前ブリーフィング

当センター事業推進役の鈴木より災害廃棄物に関する話題提供として、「災害廃棄物ってなに？」と題して、過去の被災地での実態から出てきた「勝手仮置場」や「便乗ごみ」の発生、仮置場付近の渋滞発生、分別排出の不徹底、仮置場運営に関する行政と住民の認識の違い等の課題について分かりやすく解説した。災害廃棄物を適正に処理することの必要性、行政・市民・地域の事情等が協働することの有用性を解説し、ワークショップディスカッションのヒントとなるような話題提供を実施した。



図 31 講義の様子①



図 32 講義の様子②

④分別クイズ

事前ブリーフィング終了後、災害廃棄物処理に関する分別クイズを3問実施した。災害時に排出される有害・処理困難物については、誤った処理が重大な事故を引き起こす原因になるため、適切な分別・処理方法についてクイズ形式で学べる内容とした。

各グループにファシリテーターを配置し、グループ内の自己紹介を含め、グループワークの進行補助をした。設問は下記のとおり。

問題

被災家屋の片付け中に、被災者の貴重品・思い出の品を
発見した。処理方法として間違っているのはどれか？

1. 貴重品は警察署に届ける
2. 個人情報が含まれるため、迅速に処理をしなければならない
3. 思い出の品は、可能な限り所有者に戻せるように分けておく
4. 発見場所や品目が分かるように管理リストを作成して、自治体等が管理する



図 33 分別クイズ 設問 1

問題

避難所などに届けられた「支援物資」は災害廃棄物
として処理は可能か？

1. 災害廃棄物として処理することができる
2. 災害廃棄物として処理することができない

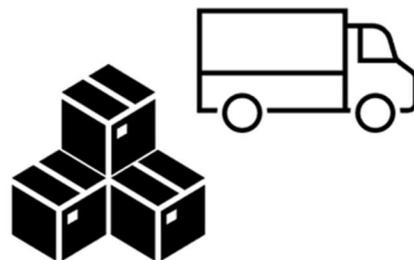


図 34 分別クイズ 設問 2

問題

被災した家屋の外壁を片付ける際、処理方法として間違っているのはどれか？

1. 仮置場に持ち込みやすいように、なるべく細かくした状態にする

2. 解体した外壁が飛ばないように、上からシートなどを被せる。

3. 解体中は粉じんが舞わないように、湿潤化した状態にする。

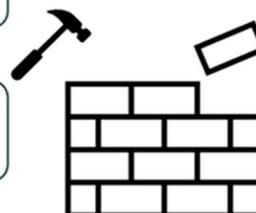


図 35 分別クイズ 設問 3

⑤ワークショップディスカッション

災害廃棄物処理に関する4つのテーマに対して、住民、行政職員、関係事業者等の各視点から意見を出し合い、課題解決に向けそれぞれの役割について検討し持続可能な地域にどのようなアイデアがあるかグループワークを実施した。テーマは下記のとおり。

- テーマ① 「分別して持ち込むことは難しい？」
- テーマ② 「世代や属性を超えて、取り組むためには？」
- テーマ③ 「被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？」
- テーマ④ 「勝手仮置場って何故出来るのだろうか？」

グループ内で出た意見は、模造紙やポストイットを使用してまとめた。その後、ホワイトボードを使用して、会場全体にグループの意見を発表した。



図 36 グループワークの説明



図 37 グループワークの様子①



図 38 グループワークの様子②



図 39 発表の様子①



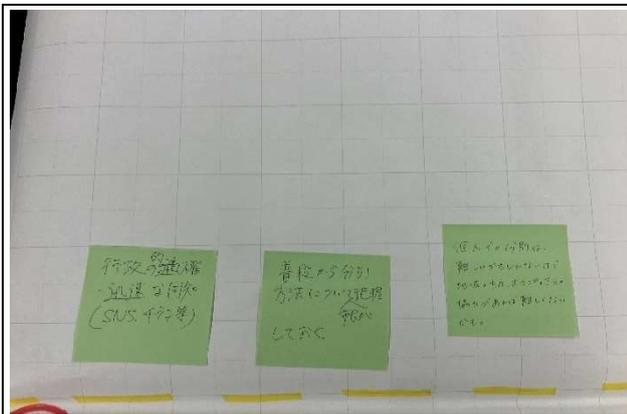
図 40 発表の様子②



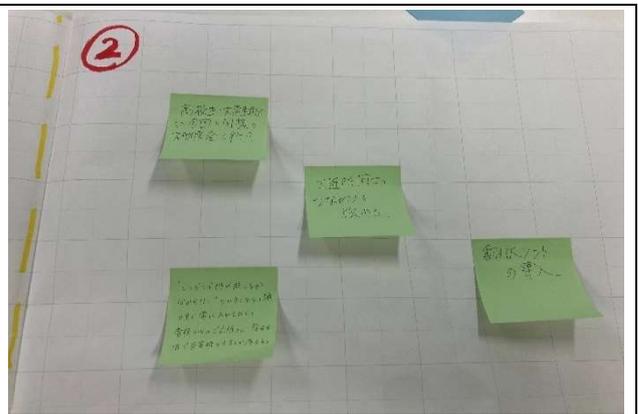
図 41 発表の様子③

各グループの回答は下記のとおり。

(Aグループ)



テーマ①



テーマ②

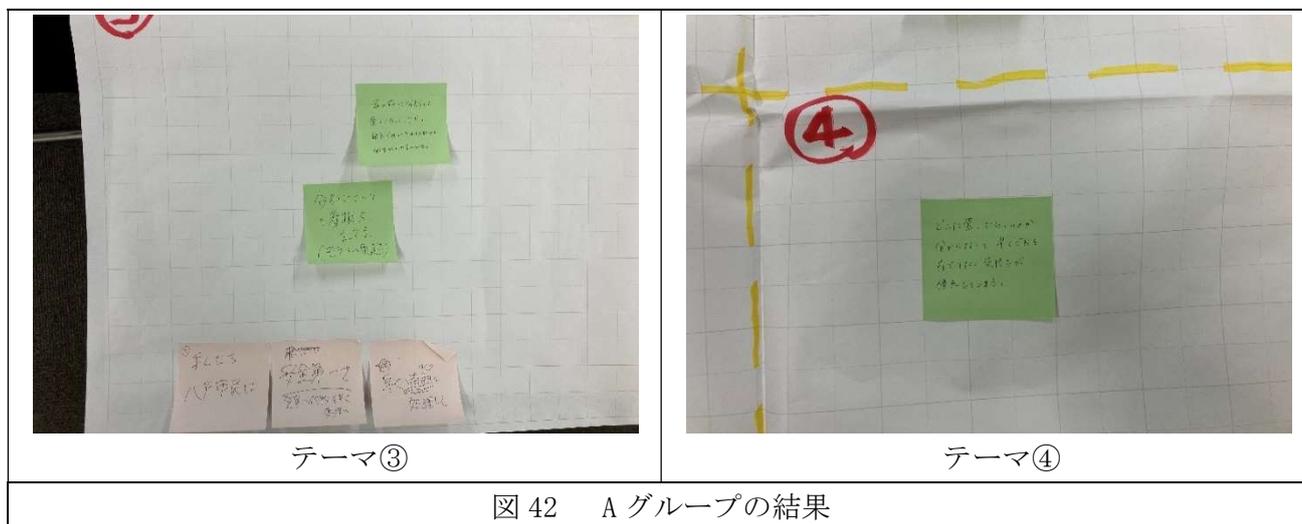


図 42 A グループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

個人での分別は、難しいかもしれないけど、地域の方々、ボランティアとの協力があれば難しく
ないかも

普段から分別方法について市民が把握しておく

行政の的確・迅速な周知（SNS・チラシ等）

テーマ② 世代や属性を超えて、取り組むためには？

高校生・大学生向けに今回と同様の研修会を行う

ご近所同士のつながりを強める

翻訳ソフトの導入

いつ・どこで何が起こるか分からないという事を、頭の中に常に入れておく。普段からのご近所
さん、学生生活で災害時どうするかを考える

テーマ③ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

分別についての看板を立てる（モラル喚起）

家の前に分別しておくようにしたら、被災ごみかそれ以外の分別がしやすいかも

テーマ④ 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

どこに置いたらいいのかわからなくて、早くごみを片付けたい気持ちが優先してしまう

(B グループ)

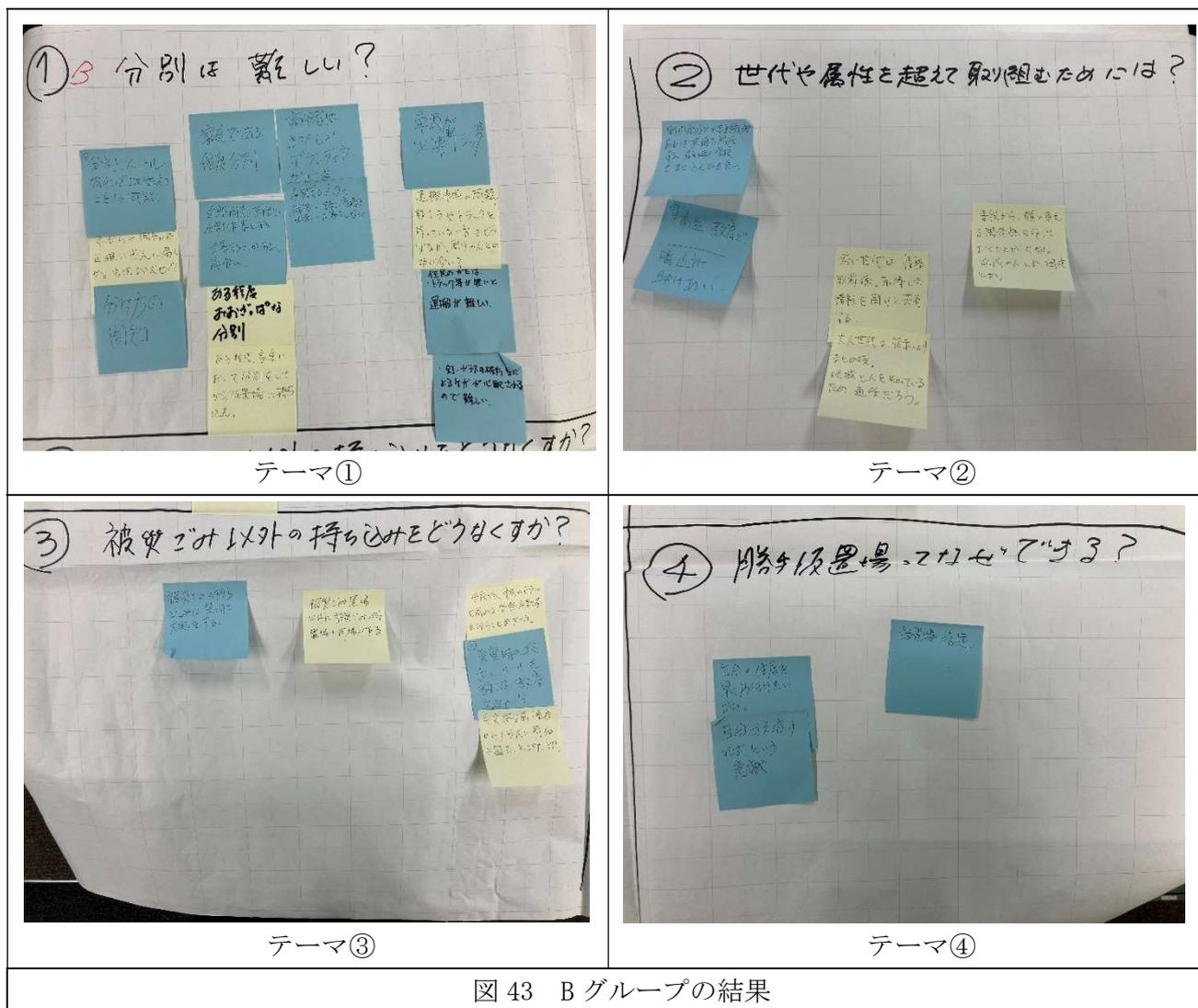


図 43 Bグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

分別、ルールがあれば取り組むことは可能

市からの周知が正確に市民に届くか。方法が大切？

分け方の周知

家庭である程度分別

近所同士、共同で分別作業をする。主導する人がいると尚良い

ある程度大雑把な分別

ある程度家庭において分別してから仮置場に持ち込む

高齢者は厳しい、ボランティアが必要

分別する人での確保。一様に高齢世帯、一人暮らしなど

車両が必要（トラック等）

運搬車両の問題。軽トラックやトラックを持っていない方はどうするか。周りとの助け合い？

住民の方はトラック等が無いと運搬が難しい

釘・ガラスの破片等によるけが心配されるので難しい

テーマ② 世代や属性を超えて、取り組むためには？

町内会等の組織があれば共同で対応する。学校を巻き込んでも良い

中高生教育を実施

隣近所の助け合い

若い世代は情報習得係。取得した情報を周りに共有する

大人世代は指示・とりまとめ役。地域の人を知っているため適任だろう

普段から顔の見える関係性を作っておくことが大切。近所の人とか団体とか

テーマ③ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

被災ごみの持ち込みは禁止する広報をする

被災ごみ置場以外に、被災ごみ以外の置き場も同様に作る

普段から市民のモラルを高める啓発活動等を行うことが大切

災害ごみのごみ出しルールを教える、教育を普段から

災害発生前（普段から）市民に周知を図ることが大切

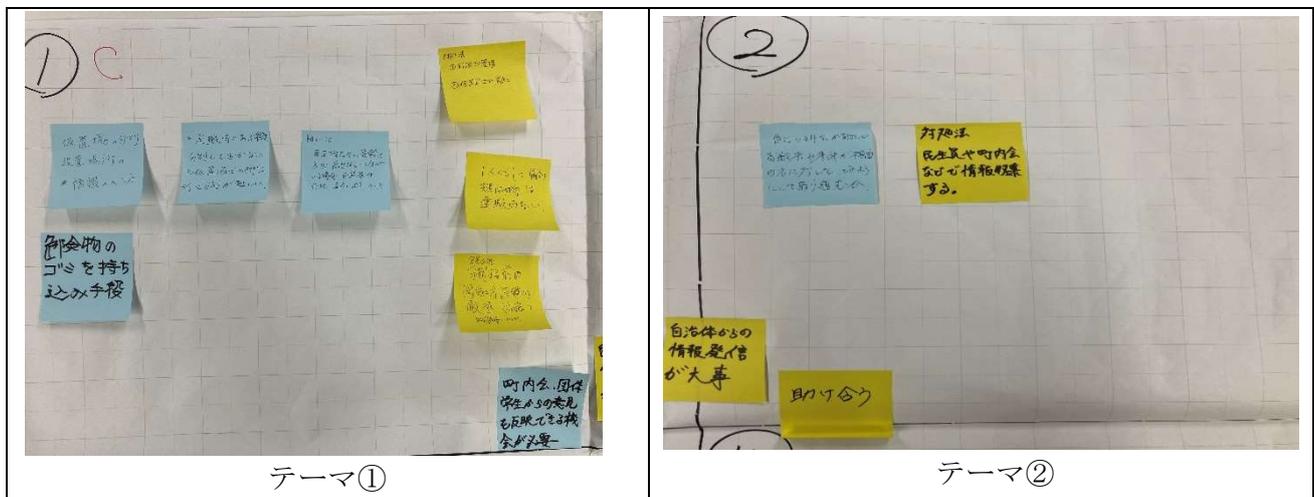
テーマ④ 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

仮置場指定

自分さえ良ければという認識

自分の住居を早く片づけたい

(Cグループ)



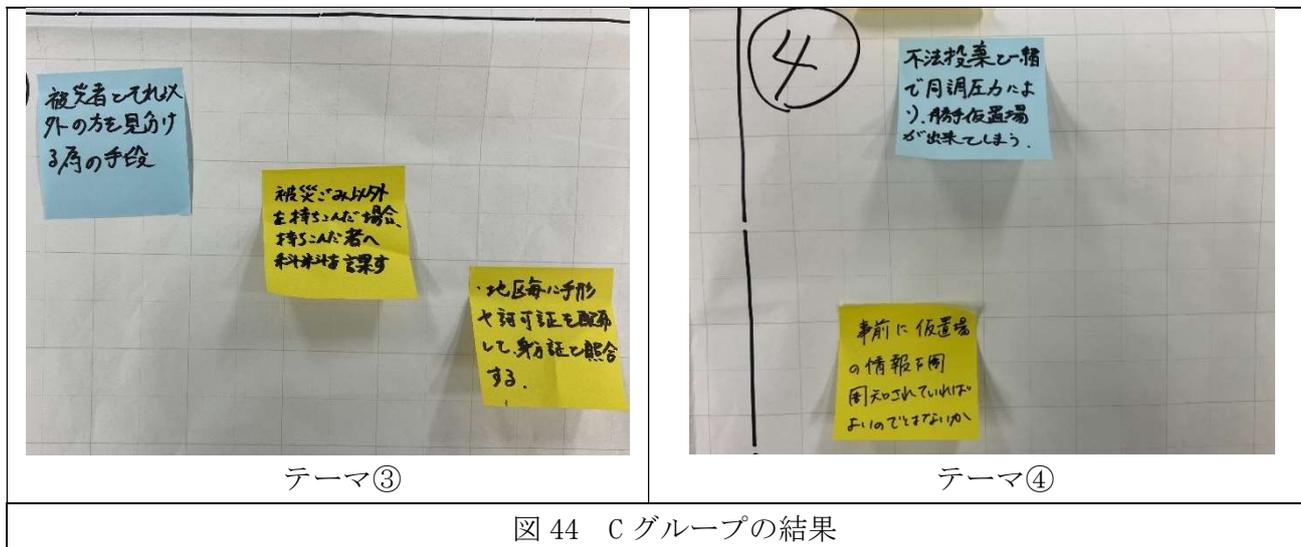


図 44 Cグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

仮置場の分別、設置場所の情報の入り方

危険物のごみを持ち込む手段

運搬時にある程度分別しておかないと仮置場での排出時に分別が難しい

難しい事、車を持たない高齢の方が、高台などに住んでいる場合、仮置場が低地、遠方にあるケース

行政が管理

住民同士で周知

1人暮らしで災害廃棄物は運搬できない

分別する前の周知方法の徹底（広報・地方自治体・マスコミ）

町内会、団体、学生からの意見を反映できる機会が必要

自治体からの情報発信が大事

テーマ② 世代や属性を超えて、取り組むためには？

助け合う

自己の搬出が難しい高齢者や身体が不自由の方に対して、どのようにして取り組むか

民生員や町内会などで情報収集する

テーマ③ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

被災者とそれ以外の方を見分ける為の手段

被災者ごみ以外を持ち込んだ場合、持ち込んだものへ過料を課す

地区毎に手形や許可証を配布して、身分証を照合する

テーマ④ 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

不法投棄と一緒に同調圧力により、勝手仮置場ができてしまう

事前に仮置場の情報を周知されていれば良いのではないかと

〈Dグループ〉

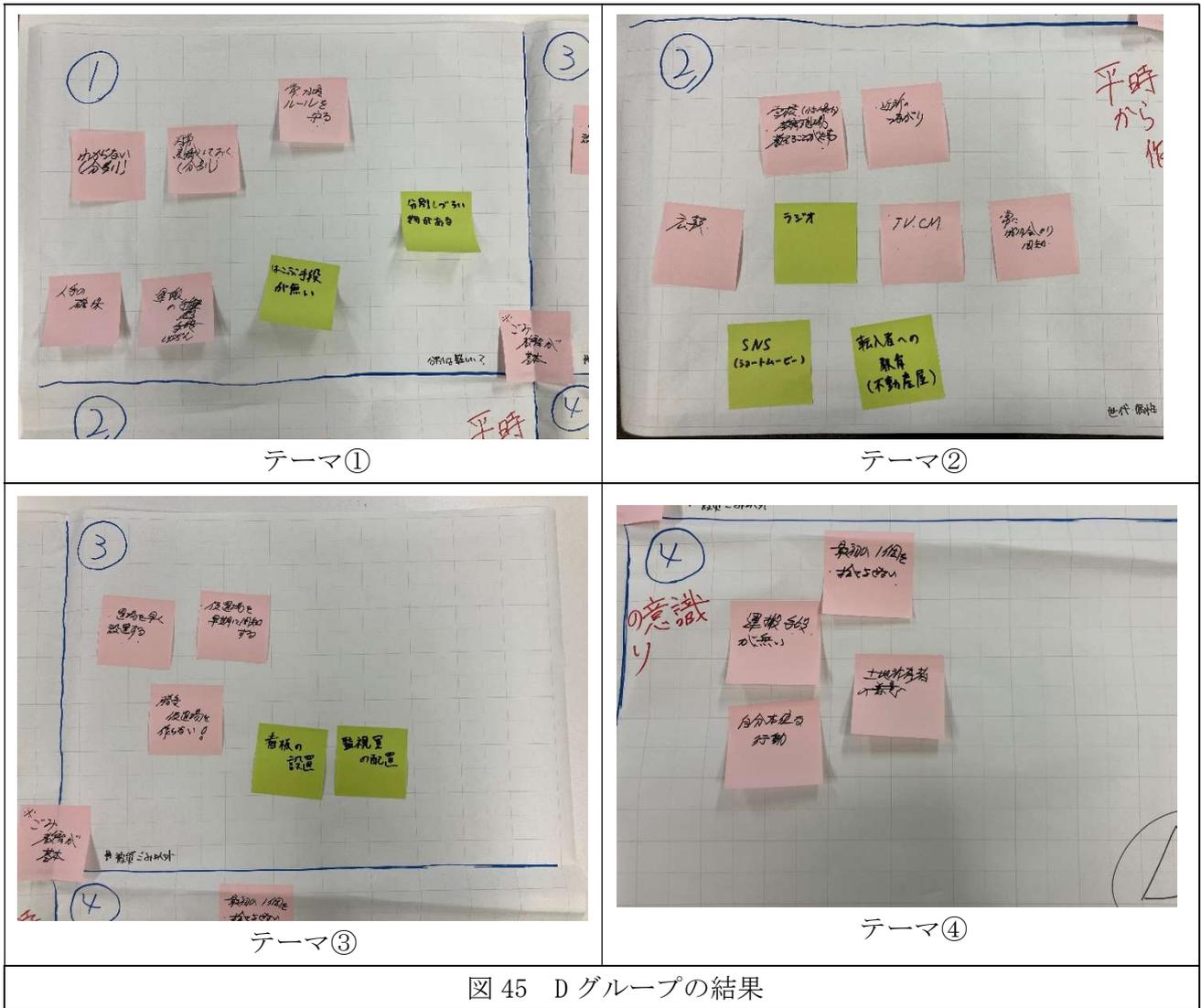


図 45 Dグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

分からない (分別)

常に意識しておく (分別)

常にルールを守る

分別しづらいものがある

運ぶ手段がない

人手の確保

運搬の手段

ごみ教育が基本

テーマ② 世代や属性を超えて、取り組むためには？

学校、教育現場で教えることが大事

ラジオ

近所のつながり

TV. CM

転入者への教育 (不動産屋)

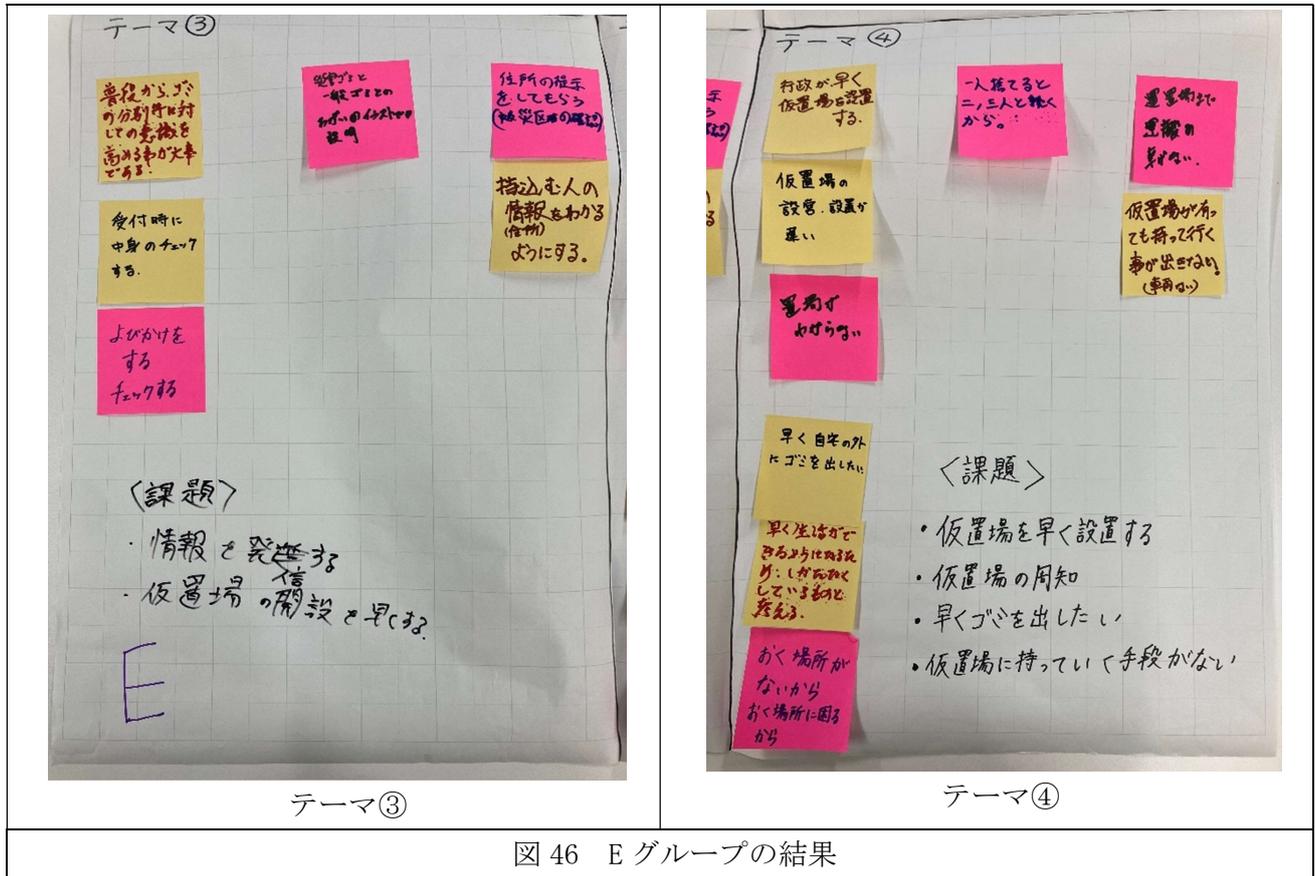


図 46 Eグループの結果

テーマ① 分別して持ち込むことは難しい？

分別の仕方が分からない（一般の方）

何を分別するか分からないから

分別の仕方が分からない

難しい。分別の種類が分からない。持ち込む車両が無い

分別するためのスペースが一般家庭の家がない

人手がないためむずかしい

ご高齢の方やご高齢で一人暮らしだと難しい

運ぶための車がない

分別することは可能

早く処理したい為に分別しない

テーマ② 世代や属性を超えて、取り組むためには？

SNSを使う

ポスターなどでボランティアを募集する

SNSで発信する

外国人の方に向けて、外国語対応のアプリを活用する

隣近所の助け合い

普段からの町内交流

行政としては何らかの手段で、分別の仕方や場所の指定を知らせる

行政から普段からCMなどで分別の説明を流しておく

テーマ③ 被災ごみ以外の持ち込みをどうなくすか？

普段からごみの分別等に対しての意識を高めることが大事である

受付時に中身をチェックする

呼びかけをする

チェックする

災害ごみと一般ごみとの違いをイラストで表示

住所の提示をしてもらう（被災区域の確認）

持込む人の情報を分かるようにする（住所）

テーマ④ 勝手仮置場って何故出来るのだろう？

行政が早く仮置場を設置する

仮置場の設営・設置が遅い

置場が分からない

早く自宅の外にごみを出したい

早く生活ができるようになるため、仕方なくしているものとする

置く場所が無いから

置く場所に困るから

1人捨てるのと2、3人と続くから

置場まで運搬する車が無い

仮置場があっても持っていくことができない（車両が無い）

⑥八戸市コミットメント

ワークショップ全体を通して、八戸学院大学 地域経営学部教授 堤静子氏、八戸工業大学 工学部教授 鈴木拓也氏よりコメントを頂いた。

堤教授 コメント

今回本学の学生も2名参加させていただいているが、今回のワークショップのように多様な団体・世代の方々が集まって「災害廃棄物」のテーマについて議論を交わすことは八戸市では初めてと聞いている。

今後、このような多様な団体・世代を超えた議論の場は大事になってくるのではないかと考えている。大学では学生のためのワークショップは実施しているが、本日は貴重な経験になったのではないかと感じる。

また、最後に八戸市のコミットメントとして取りまとめていくが、ワークショップはやって終わりになってしまう事が見受けられるが、地域ごとのコミットメントを作成することで、成果のあるワークショップになったのではないかと感じる。

本日は貴重なお時間をありがとうございました。



八戸学院大学 堤教授

鈴木教授 コメント

私は災害廃棄物については、東日本大震災の対応に関わってきた。当時は三陸沿岸部の津波被害を受けた地域で最初に取り掛かったのがれきの処理だった。先ほど、コミットメント（案）の話の中で、「地域の日常を取り戻す」といったキーワードが挙げられた。災害からの復旧・復興のためには災害廃棄物を処理することが必要となってくる。

今回のワークショップでは、4つのテーマについて議論を交わしていただいたが、これらのテーマは東日本大震災から能登半島沖地震の対応の中で行政が困ったことを市民の皆さんに考えてもらうために設定したのではないか。

「世代や属性を超えて、取り組むためには？」のテーマについて、町内会との連携等の意見が挙がっていたが、現状、町内会の働きはいかがか。若者が地域コミュニティに参加できていない、都市部に流失してしまっている現状だと思われる。

災害廃棄物を処理するには行政だけでなく、市民・企業との連携も必要になってくるため、本日の内容をブラッシュアップして、今後活用してもらいたい。

ワークショップ全体の成果として、八戸市のコミットメントを下記のとおり提示した。

私たちは、八戸市民は災害の発生に備えて自治体、地域学校等が連携し、外国人やマイノリティを含めて、誰一人取り残さない災害廃棄物処理を進めます。
また、平時からの情報発信と共有を図り、地域の日常を取り戻すためにチカラを合わせて取り組みます！



八戸工業大学 鈴木教授



図 47 八戸市コミットメント

ワークショップ閉会に伴い、青森県環境政策課 総括主幹（循環型社会推進 GM）石塚 雄士氏よりお言葉を頂いた。

本日は活発なご議論をいただき感謝申し上げます。

本ワークショップは、今年度弘前市に続き2会場目の開催となった。県内では今年初めての開催、全国でもほぼ開催例のない先駆的な取り組みとなる。

本日のワークショップの成果としてコミットメントを取りまとめていただいた。

このコミットメントで終わりにするのではなく、今後の災害発生時の心構えになると考えている。今日のワークショップの内容やコミットメントを持ち帰っていただき、災害時の対応について皆さんが考えたことを職場や町会、近所の方に是非共有いただければと思う。



(3) アンケート

ワークショップ終了後、参加者に対して事後アンケートを実施した。
設問は下記のとおり。

青森県災害廃棄物に係る地域ワークショップ

「みんなで考える災害廃棄物への準備～地域の復旧・復興のために～in 八戸 アンケート

質問1 あなたの所属(お立場)について教えてください。(○で囲ってください)

市民 学生 ボランティア 行政職員 関係団体

質問2 今回のワークショップの感想をお聞かせください。(○で囲ってください)

①災害廃棄物について関心持つきっかけになりましたか

・とても当てはまる ・やや当てはまる ・あまり当てはまらない ・まったく当てはまらない

②OR コードアンケートのアイスブレイクは如何でしたか

・シンポジウムの狙いが理解できた ・シンポジウムの狙いが理解できなかった
・回答の仕方は簡単だった ・回答の仕方が難しかった

③災害廃棄物に関する説明+動画上映は参考になりましたか

・とても参考になった ・参考になった ・どちらでもない ・あまり参考にならなかった

④ワークショップに参加して災害廃棄物に関する気付きがありましたか

・とても気付きがあった ・気付きがあった ・どちらでもない ・あまりなかった

⑤「とても気付きがあった」「気付きがあった」とお答えいただいた方に伺います。

どのような気付きがありましたか。

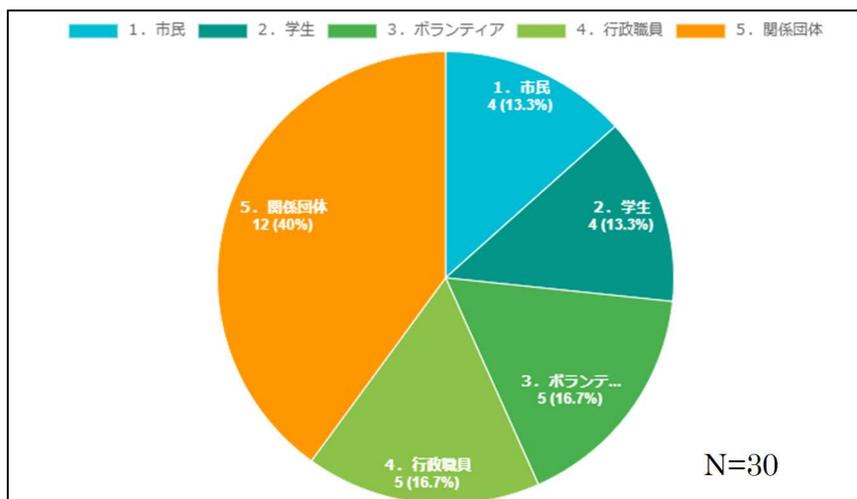
[]

⑥その他ご意見(今回のワークショップ、行政と市民の連携等)があれば記載をお願いします。

[]

★ご協力、ありがとうございました！

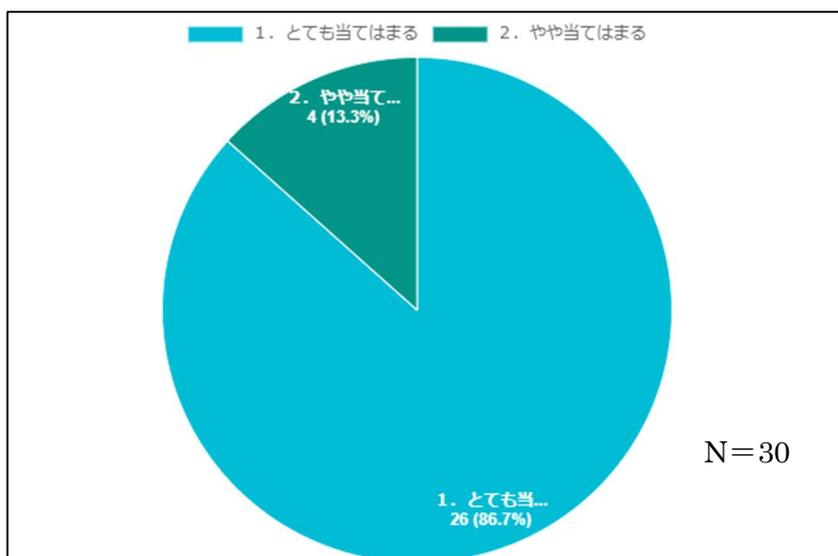
質問1 あなたの所属(お立場)について教えてください。



質問2 今回のワークショップの感想をお聞かせください。(○で囲ってください)

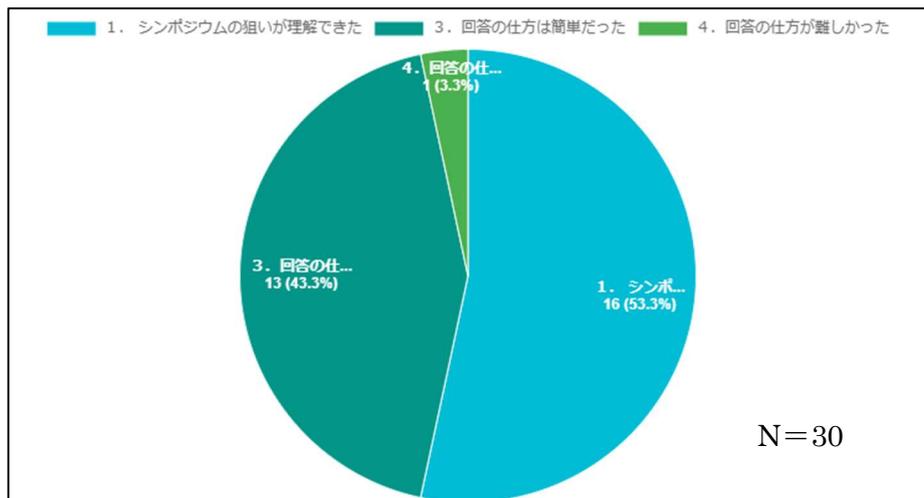
①災害廃棄物について感心を持つきっかけになりましたか？

【とても参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった】



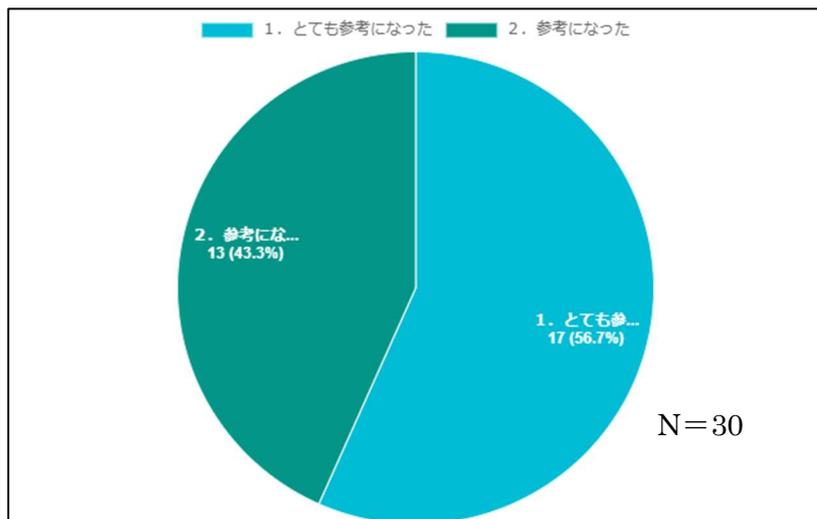
②QRコードアンケートのアイスブレイクはいかがでしたか

【シンポジウムの狙いが理解できた・シンポジウムの内容が理解できなかった
・回答の仕方は簡単だった・回答の仕方が難しかった】



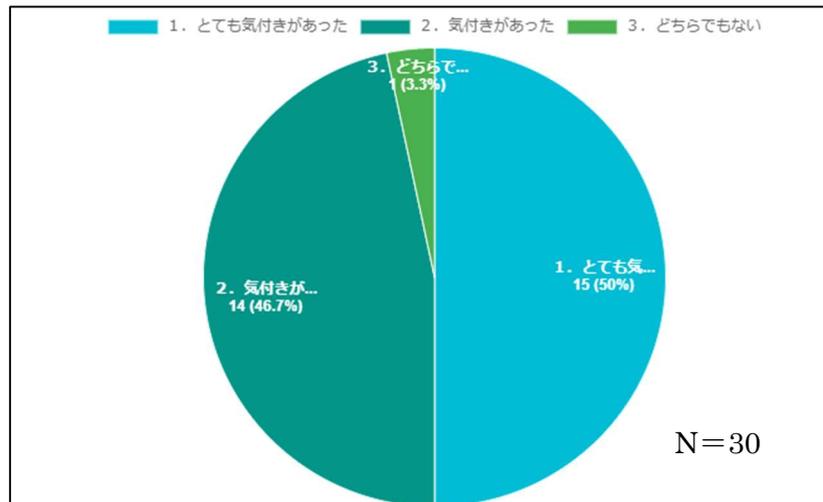
③災害廃棄物に関する説明は参考になりましたか

【とても参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった】



④ワークショップに参加して災害廃棄物に関する気づきがありましたか

【とても気があった・気があった・どちらでもない・あまりなかった】



⑤「とても気があった」「気があった」とお答えいただいた方に伺います。

どのような気がありましたか。(N=16)

支援物資は災害廃棄物になる事

災害廃棄物の分別や回収方法

様々な属性があるなあ

分別が必要なこと

関係団体や多世代によって災害廃棄物に感じて協力できることが違い、それぞれが役割を果たすことが重要である点

連携の再認識

普段災害廃棄物について考えたことがなかったため、災害廃棄物についての内容だったり、災害によつての違い、課題を理解できました

廃棄物に係る協会の災害廃棄物に関する関心

災害廃棄物の概念の理解ができた

住民の意見と業者の意見

このようなテーマは初めてなので勉強になりました

平時からの災害廃棄物処理を考えておくことが重要

仮置場設置のスピードと、普段からの意識醸成や普及啓発が大切だということ

廃棄物の分別、出し方の周知の必要性

災害廃棄物という物への意識を向ける機会になった。平常時からの心構えが必要だと思った
改めて災害について考える事ができました

⑥その他ご意見（今回のワークショップ、行政と市民の連携等）があれば記載をお願いします。

(N=12)

今回のようなワークショップを年に何度か学生や行政の方を交えて開催していただけると幸いです

学校等でも取り組んで貰いたい

今後も継続してワークショップなどの機会を設けていただきたい

大変お疲れ様でした。機会を設けて頂き有難うございました

とても有意義なWSでした

若い世代の参加者を増やしたい

引き続きワークショップを重ねていろいろな意見を聞いてみたい

このような機会がもっと増えればいいと思います

定期的にした方がいいと思いました

参加者の所属団体などが記載された参加者名簿を提供いただきたい。連携するときに参考にできるため

今後も開催が行われるようにと思いました

私達のグループで、出た意見として、幼、小、中、高など若者への教育の機会をお願いします

以上